

4-(1)-⑩ 社会貢献活動

藝術学舎 [<https://air-u.kyoto-art.ac.jp/gakusha/>]

藝術学舎は、京都芸術大学が企画プロデュースする社会人のための新型アートカレッジ(公開講座)です。東京・明治神宮外苑内にある外苑キャンパスで実施する「東京藝術学舎」、大阪・梅田の大阪サテライトキャンパス(富国生命ビル内)で実施する「大阪藝術学舎」、京都・本部キャンパスで実施する「京都藝術学舎」に加え、全国各地で実施する「訪問藝術学舎」の4つのカテゴリで、年間250以上の講座を開講しています。講座は、社会人の多様なライフスタイルに合わせてらるよう、「隔週」(全5回・3ヶ月)と「集中」(2日連続)の2つの開講形態があり、通信教育部同様、10代から90代までの幅広い世代が集い、芸術の学びを深めています。また、ほとんどの講座が、京都芸術大学通信教育部との単位連携(認定)の対象となります。

京都芸術劇場 春秋座 [<http://www.k-pac.org/>]

京都芸術劇場春秋座は、2001年に京都芸術大学内に開設された、わが国の高等教育機関でははじめて実現した大学運営による本格的な劇場です。古典芸能を新世紀へと受け継ぐことはもとより、新たな創作活動を通じてさらなる表現の可能性を追求する実験と冒険の場でもあります。舞台芸術を通じて京都における伝統と創造の姿を全国へ、そして世界へと発信します。

芸術文化情報センター ピッコリー [<http://www.piccoli.jp/>]

ピッコリーは、『京都文藝復興』を掲げる京都芸術大学が、豊かな文化環境の中で子どもたちが育つことを願って、1978年に開設した子ども図書館で、学内外に開放しています。蔵書として、絵本や児童文学・児童文化に関する資料約18,000冊を所蔵しています。本の閲覧や貸出のほか、おもちゃの利用などができます。子どもと本をつなぐ催しとしておはなし会を開催しています。

康耀堂美術館 [<http://www.koyodo-museum.com/>]

6000坪の森の中に佇む康耀堂美術館は、2001年7月に佐鳥電機株式会社前会長佐鳥康郎氏の個人美術館として緑豊かな八ヶ岳の麓、長野県茅野市に開館しました。佐鳥康郎初代館長が急逝した後、2005年8月より京都芸術大学が運営を引き継ぎ、世界的に活躍している日本画家の千住博氏を館長に迎え、大学附属美術館として2006年4月、新たなスタートを切りました。日本画家高山辰雄画伯の作品を中心に、近現代の日本画・油画・水彩画・版画など400点あまりを収蔵し、年3～4回のコレクション展、茅野市教育委員会と連携した縄文アート体験授業、各種イベントやコンサートを開催しています。

Galerie Aube /ギャルリ・オーブ

2005年に開設された美術展示ホールです。ギャルリ・オーブは、生の豊かさとは何かを問い、美を感じる心を育てる契機となることを企画方針として、国内外のすぐれたアーティストたちを選びすぐって長期・短期の展望のもとに旗色鮮明の作品展示を行い、伝統を現代に活かす創作活動に挑戦するために開設されました。“オーブ”とは、フランス語で「夜明け」「黎明」を意味し、このギャルリの活動が21世紀世界の美術の新しい夜明けとなることを願って名付けられました。

芸術文化情報センター

芸術文化情報センターは、京都文藝復興と日本の芸術文化再生をめざす本学教育研究活動の基盤として、2001年4月に設置されました。図書館機能を中心に、子ども図書館ピッコリー、奈良本辰也記念文庫で構成されています。芸術大学としての特色に基づいた資料の収集と公開のほか、情報メディア全般を活用した学習・研究環境を学生・教職員に提供するとともに、資料の一部を一般にも開放しています。

文明哲学研究所 [<http://www.kyoto-art.ac.jp/iphv/>]

文明哲学研究所は、「芸術立国」という本学の理念の実現や芸術による人類の幸福への貢献に向けて、様々な活動を行う研究組織として2012年に設立されました。本研究所では、芸術と科学の架橋、社会における芸術の役割、芸術がこころに及ぼす影響といった種々の課題に学際的アプローチで取り組んでおり、公開セミナーや講演会、インターネットによる情報発信等を通じてその成果を社会に向け発信しています。